

堺市がめざす特別支援教育の姿

第1回総合教育会議の議論をふまえて

第1回総合教育会議における主な意見

- ・教員、保護者、児童生徒、可能ならば国内外の専門家の意見を聞きながら、より効果的で望ましい取組を実施することが必要。次回の総合教育会議に向けて可能であればヒアリングを行ってほしい。
- ・授業の進め方では、ユニバーサルデザイン化が重要である。
- ・学校の環境がユニバーサルデザインの視点で変われば、どの子にとってもわかりやすく快適にすごせる環境になる。
- ・現在特別な支援を必要とする子どもたちの指導に当たっている先生や関係者に、現状把握のために丁寧な聞き取りを行う必要がある。
- ・実際どのように導入していくかについては、教育現場の現状を把握した上でなければ成功しない。

本市の現状把握、他市事例の把握、学校や専門家への意見聴取

＜ユニバーサルデザインに関すること＞

- ・学校におけるユニバーサルデザイン化の取組状況
- ・ユニバーサルデザイン化に関する今後の方向性

＜学びの場の見直し・めざす姿＞

- ・学びの場の見直し・通級指導教室の取組状況
- ・堺市がめざす特別支援教育の姿に向けて

今回の会議の報告内容

| 時期 | 到達点 |
|---------------------------|---|
| 令和5年8月16日 (第1回総合教育会議) | 現状の認識 今後の方向性の共有 |
| 令和5年11月13日 (第2回総合教育会議) | プラン策定に向け、学校教員や 専門家等から意見聴取した 内容とめざす方向性に関する 中間報告 |
| 令和6年2月頃 (第3回総合教育会議) | 具体的な取組、目標等 →プラン（案）の議論 |

学校におけるユニバーサルデザイン化の取組状況

■ 学校における取組内容（小学校、中学校へのアンケート調査結果から）

| 授業での取組 | 授業時間に限らない 学校生活での取組 | 教員の資質向上・ 理解促進の取組 |
|--|---|--|
| <p>【指導方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業ごとに「めあて」を明示 ・ノートの形や板書の流れを合わせる ・意見交換の際に利用する図・式・言葉等を予め提示 ・授業のポイント（ターゲットセンテンス）を繰り返す <p>【授業時のツール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読みやすいフォントの活用 ・挿絵やイラスト等の活用 ・前の授業ノートの活用（振り返り） | <p>【教室環境の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒板付近の掲示物を減らす ・収納場所を写真や色分け ・マス目黒板の活用 <p>【学級運営上の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指示事項の可視化（モニター・黒板への掲示） ・ハンドサイン（手や指の動きで意思や気持ちを表現）の活用・学校内で統一 ・掲示方法の工夫 | <p>【校内研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な校内研修の開催 ・外部講師を招聘した研修実施 <p>【自己研鑽や工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の相互参観、意見交換 ・ユニバーサルデザインのアイデアの共有 ・全教職員の動静の可視化（支援の入り込みが行いやすいように） |

■ 小学校と中学校における取組状況（小学校、中学校へのアンケート調査結果から）

- 取組内容は、特別支援教育の領域に関わるものではなく、全ての児童生徒を意識した内容になっている。
- 小学校、中学校とも、ユニバーサルデザイン化の取組は概ね出来ているという回答が多い。
- 中学校では以下の観点・取組が十分ではないと考えている割合が多い。
 - ・子どもの主体的な意思表現を促す支援（子どもの考えを表出する工夫、答えやすい工夫・雰囲気醸成）
 - ・教員の意識（教員同士でユニバーサルデザインの取組を考える） など
- 取組事例の多くが視覚にアプローチするものであり、視覚以外（聴覚等）のアプローチが少ない。

ユニバーサルデザイン化に関する今後の方向性

■ 専門家の意見

Q 学習（学校教育）のユニバーサルデザイン化に向けた留意点

- ユニバーサルデザインの考え方や内容は、画一的ではなく、**個々の子どもの状況に応じて考える**必要がある。
- 「スタンダード」として、概念を固定化した認知は適切ではなく、柔軟な対応が求められる。

■ 学習のユニバーサルデザインとは（定義）

障害のある子どもを含む、すべての子どもがわかりやすく、参加できる学び（授業）

（NITS（独立行政法人教職員支援機構）より）

めざす方向性（以下の視点を踏まえ今後どのような取組実践が必要かを検討）

- **特別支援教育だけでなく、あらゆる施策や活動にユニバーサルデザインの視点を取り入れる意識醸成**
 - ➔ 個々の子どもの特性を踏まえた取組の実践へ
- **ユニバーサルデザインに対する正しい理解促進や、好事例の学校間・校内共有**
（特に中学校段階での実践に向けた方策の検討）
 - ➔ 「教員個人による知識習得」から「組織的共有」による効率的・効果的な実践へ
- **ICT機器やツール等の特徴を活かした効果的な取組の検討**
 - ➔ 新たな機能等を取り入れた教育活動や学校運営の実践へ

学びの場の見直し・通級指導教室の取組状況

■ 学校における取組内容（小学校、中学校への聞き取り調査から）

| 学びの場の見直し | 切れめない支援 | 通級担当教員の資質向上 |
|---|---|---|
| <p>【校内体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見直しを計画的に行うために年度ごとの目標の設定や、中学校区で共通した計画の策定を実施 ・ICTを活用したユニバーサルデザインの実施における個別最適な学びや協働的な学びの推進 | <p>【小中連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校区単位での通級指導教室を希望している児童生徒の情報共有 ・小学校6年生の通級利用児童を対象に、中学校区の通級担当教員が中学校での学校生活や通級指導教室の概要説明会の開催 ・早期からの保護者や本人との教育相談の実施 | <p>【校内の教員間連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡ファイルや懇談での情報共有 ・公開授業や校内研修によるの実施 <p>【自己研鑽】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政研修や各校取組の共有ツール、そこから得た担当者同士のつながりをもとに、日常の指導支援について自主的な相談体制の構築 |

■ 他自治体の事例から

| 学びの場の見直し | 切れめない支援 | 通級担当教員の資質向上 |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の学びの場の再検討が行いやすいように「適切な学びの場」ガイドラインの作成や活用例の提示 ・「読み」や「書き」に困難さがある児童生徒に対して教員の指導方法をまとめた「アセスメント・指導・支援パッケージ」や音声教材等の情報の提供 （学びの場に応じた指導方法を各学校へ提供することで学びの場の見直しを推進） | <ul style="list-style-type: none"> ・学習面の困難さの把握を目的とした小学校1年生児童全員を対象としたスクリーニングテストの実施 ・市立小中学校から県立高等学校への引継ぎ文書の活用 （生徒自身の日常生活や学習の困り感に関するセルフチェック（自己管理）と、教員の見立てに加えて、引継ぎ文書を活用した継続した通級指導の必要性の検討（教員間との共有）） | <ul style="list-style-type: none"> ・全学校を対象とした研修に加え、ブロック連絡会や支援チーム（通級指導経験の長い教員、支援学校教員）の巡回指導など、学校主体とした研修体制の充実 ・中学校での通級指導の充実を目的とした教員の指導方法をまとめた「通級指導教室サポートパック」の作成・活用 |

堺市がめざす特別支援教育の姿に向けて

■ 専門家の意見

Q 今後の通級指導や今後の特別支援教育に求められる視点は。

● 校内体制の構築

- ・校長をはじめとした適切な通級指導の意義理解が重要である。
- ・常時教員同士が気軽に相談できる雰囲気醸成が必要である。

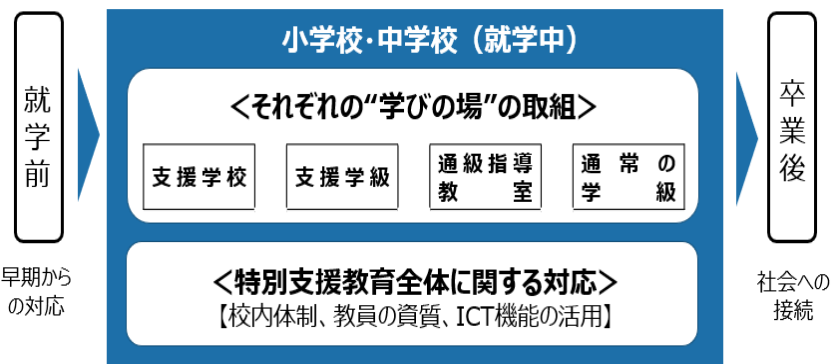
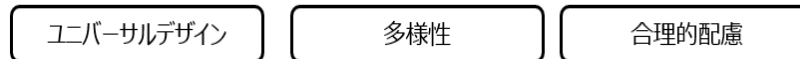
● 学びの接続

- ・就学前からの早期の対応が必要である。
- ・就学前から小・中学校への接続だけでなく、高等学校や社会までの義務教育終了以降も継続した切れめない支援の充実が重要である。

● 全市的な取組の強化

- ・通級指導教室担当教員をはじめ、全ての教員の専門性を身につけるための研修の充実が必要である。

取組の検討にあたり必要な観点



- ユニバーサルデザインをはじめとした考え方をいかに組み込んでいくか
- 小学校、中学校の段階だけでなく、「就学前」や「卒業後」との関係性が重要

めざす方向性（以下の視点を踏まえ今後どのような取組実践が必要かを検討）

- 校内体制整備とユニバーサルデザイン化と合わせて進める「学びの場の見直し」の推進
 - ➡教育水準の維持・向上に向けた効果的な体制や手法の活用へ
- 就学前から小中高、さらには社会に至るまでの切れめない支援
 - ➡早期からの支援の重要性などを鑑みた各機関との接続と連携へ
- 通級指導教室の増設置（新設校）に向けた教員の専門性の向上やノウハウの共有
 - ➡現在の通級指導教室の先進的な取組内容の共有および実践へ